

衆議院環境委員会ニュース

平成 26. 4. 18 第 186 回国会第 8 号

4 月 18 日（金）、第 8 回の委員会が開かれました。

1 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 57 号）

- ・石原環境大臣、浜田復興副大臣、北川環境副大臣、田中経済産業大臣政務官、牧原環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成一自民、民主、維新、公明、みんな、結い、野間健君（無））
- ・盛山正仁君外 5 名（自民、民主、維新、公明、みんな、結い）から提出された附帯決議案について、吉田泉君（民主）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。
（賛成一自民、民主、維新、公明、みんな、結い、野間健君（無））

（質疑者及び主な質疑内容）

生 方 幸 夫 君（民主）

- ・認定鳥獣捕獲等事業者に反社会的勢力が入ることが懸念されるが、環境省における確認体制を伺いたい。
- ・捕獲鳥獣の肉のレストラン等への供給が普及すると、ニホンジカやイノシシの個体数の半減目標達成後においては、供給不足による乱獲が懸念されるが、環境省の見解を伺いたい。
- ・鳥獣被害の抜本的解決策として、里地・里山の適正な管理に行政が関与すべきと考えるが、石原環境大臣の所見を伺いたい。

鈴 木 義 弘 君（維新）

- ・昭和 38 年の鳥獣保護法改正により、鳥獣保護思想が明確化された当時の時代背景について伺いたい。また、人間が鳥獣の個体数管理を故意に行う根拠及びその是非について、環境省の見解を伺いたい。
- ・環境省が開催している「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」による狩猟者数増への効果及び狩猟者育成の方策について伺いたい。
- ・狩猟者を増加させるため、銃刀法におけるライフル銃所持の許可要件である猟銃所持期間（継続 10 年以上）の短縮が必要と考えるが、警察庁の見解を伺いたい。

斉 藤 鉄 夫 君（公明）

- ・ニホンジカやイノシシ等の野生鳥獣の生息数の把握は捕獲目標数設定の前提となる。このため、野生鳥獣の個体数の推定値の精度を高めていくための取組、現在の情報収集の仕組みと今後に向けた取組方針を伺いた

い。

- ・特定鳥獣保護管理計画の策定主体である都道府県職員の専門性強化を図るための人材育成について、北川環境副大臣の見解を伺いたい。
- ・指定管理鳥獣捕獲等事業を推進するための財政支援の必要性について、石原環境大臣の見解を伺いたい。

林 宙 紀 君（結い）

- ・夜間銃猟については、その導入後一定期間経過した場合に、リスクを踏まえてなお効果があるか検証する必要があると考えるが、環境省の見解を伺いたい。
- ・北海道ではエゾシカが車や列車と衝突する事故が増えているが、事故を防止するための対策について、国土交通省に伺いたい。

中 島 克 仁 君（みんな）

- ・農林業被害防除を目的とする被害防止計画と生態系被害防除を目的とする特定鳥獣保護管理計画を連携させるためにどのように取り組むつもりか、環境省及び農林水産省に伺いたい。
- ・今回の法改正により麻醉銃の活用がどの程度進むと考えているのか。また、麻醉銃を使用した場合、錯乱状態になった鳥獣が市街地をうろつき逆に危険にならないかと懸念するが、どのような安全対策を考えているのか環境省に伺いたい。